



令和 6 年 7 月 22 日

教育委員会事務局 総務部総務課 総務グループ 御中

子供たちの未来を繋ぐお母さん連合会
連絡先: okasanrenngoukai05@gmail.com

代表 伊藤 陽子
他 28 名

「性の多様性」「性別に悩む相談所」の記載を含む教科書採択に関する要望書

拝啓、盛夏の候、益々のご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より子供達の教育にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

この度、令和 7 年中学校教科書採択において、「性の多様性」「性別に悩む相談所」の記述が含まれていることについて以下の理由から反対の意を表明させて頂きたく、以下の 1~4 の理由により要望書を提出させていただきます。(別紙資料ご参照ください)

1. 家庭の価値観との齟齬

教科書における性の多様性の記載に、男女以外の性(資料①)についても触れられています。このような内容は家庭で育んできた価値観とは異なり、親子で対立する場合があります。家庭教育の重要性を鑑み、家庭で対立が起きることのないように配慮を求めます。

2. 発達段階の適切性の懸念

教科書における性の多様性の内容について、欧米では思春期の子供達に過渡な LGBT 教育を推進したことで同性愛者が増え、性別違和を抱える子供と若者が増え、例えば米国、カルフォルニア州では親の許可なく医療介入(思春期ブロッカー等のホルモン治療や胸の切除)が認められており、治療を受ける数が増加しており後悔する子供も後を絶たないという報告もあります。(資料②) 思春期は葛藤や悩みの中で、性を含めた自我形成の不安定な時期です。子供の発達段階や精神的成熟度を考慮した適切な内容であるか、過度な詳細や子供達が混乱を招く情報が含まれていないか。(資料③) 慎重な検討を求めます。

3. 性別に悩む相談所に対する懸念

教科書に掲載されている性別に悩む相談所の案内(資料④)に関し、子供達が性別に関する問題で悩んでいる場合、親子の対話や家庭内での適切なサポートをすることが最も重要だと考えます。相談所での誘導が過渡になり、親の関与や理解を欠いたまま進行することが懸念されます。また、相談所には適切な専門知識を持ったスタッフの配置が求められますが、相談所の透明性や適切な管理の下で行われるか、保護者として不安を感じます。よって、このような記述がある教科書は採択しないことを求めます。

4. 教育の中の多様性

学校教育の中でも、色々な子供がいて正に十人十色。それぞれの個性を尊重する時代となりましたが、我が国においては、文化的にも性的指向についても他国に比べ寛容である上に、歌舞伎や芸能人の活躍もあり比較的尊重し合える社会が構築されていると思います。その中で、特定の個性だけに偏った道徳、保健、家庭科の教科書が選定されており、特段性の多様性教育が目立っています。性の混同、日本古来からの伝統的家族のあり方が失われないのか? また、SOGI 概念による誰もが性的マイノリティとして自分の性別を考える教育には疑問視しています。性の多様性をうたえば、異性愛・同性愛・両性愛・無性愛は、全て等価値であると言うことにもなりかねません。性的少数者の人権や安心のために、これまでの男女の異性愛の規範までを否定しようとするのは飛躍した発想です。従って、多様な性の理解に留め、バランス良くそれぞれの個性を尊重する教育を求めています。

以上、子どもたちの健全な成長と教育を守るために、教育委員会の賢明なご判断をお願い申し上げます。

敬具